

技術日本語表現技法 (Technical Writing)

パラグラフ 文の構造と流れ

パラグラフの満たすべき条件

- パラグラフとは・・・
 - ・長い文章の中の一區切り。
 - ・内容的に連結された, いくつかの文の集まり。
 - ・あるひとつのトピックにあるひとつの考えを述べる(記述する, 明言する, 主張する)。
 - ・何について何を言おうとするのかを一口に, 概論的に述べた文が含まれている。
→トピック・センテンス
 - ・トピック・センテンスに反したことは書かない。

トピックセンテンス

- トピック・センテンスはパラグラフを支配し, 他の文はトピック・センテンスを支援しなければならない。
- パラグラフの最初に書くのが建前である。
 - ・小説などの文芸作品では, トピック・センテンスのないパラグラフもある
 - ・理科系の文章では, 各パラグラフにトピック・センテンスがあるのが原則

展開部

- トピック・センテンスの内容について具体的な詳細を述べる文を書く際に明瞭にする事。
 - ・分を並べる順序やつなぎの言葉
 - ・トピック・センテンスとの関係
 - ・次々の文の間関係

文章の構成要素としての パラグラフ～其の式～

■ パラグラフの立て方

- ・文が短い場合→パラグラフに分割する必要なし
- ・文が長い場合→構成表を作るやり方とスケッチ・ノート法

■ パラグラフの長さ

- ・調査の結果などの報告書には、短いパラグラフ
- ・論理性を尊ぶ論文では、長いパラグラフ

文章の構成要素としての パラグラフ～其の式～

■ パラグラフの連結

- ・パラグラフが変われば読者はトピックが変わることを期待する。トピック・センテンスが末尾や中間やないほうがいい場合は、最初に、先行するパラグラフとの関係を示す文または句を入れることを忘れてはならない。

技術日本語表現技法 (Technical Writing)

文の構造と流れ

日本語圏外の視点からの日 本人の英論文の書き方

■ 日本語の文章

- (1) 日本語の文章は文を並べ連結していく構成であり、事柄の内容・関連がパラグラフ全体を読んだあとで初めてわかる。
- (2) 読者の知識や想像力を必要とする文章が許されている。
→書き手の勝手な文の省略。

■ 英語の文章

- (1) 一つ一つの文は全体を読まなくても読んだところまでで理解が可能。
- (2) 文の相互関係が前後の文章を読めば即座に理解できる。→話を脱線する際はその時点で本文との関係を述べなくてはならない。

日本語圏外の視点からの日本人の英論文の書き方

- (1) 日本語の文章の構成と同感覚に書いてしまう。→『墨絵的英文』
- (2) 想像力を必要とする。
- (3) 逆茂木型文章

理科系論文の書き方の薦め

- 逆茂木型の文章を書かない。
- くどくても論理の鎖の環を省かず明白な文章を書く。
- 日本語らしさが消えたとしても英文のような文章構成の基づいて書くべきである。
- 長い修飾語を使わない。
- 巨視的な問題から始めて、微視的な問題に及ぶ順で論文を書く。
- パラグラフを全体を読んだ後に、初めて文章がわかるという書き方はよくない。

文の構造～逆茂木型の文～

- 日本語では修飾句・修飾節が必ず前置されるので逆茂木型の文が必然的に多い。
→逆茂木型に抵抗を感じる。
- 逆茂木型の抵抗を感じさせないために
 - (1) 一つの文の中には二つ以上の長い前置修飾節は書き込まない。
 - (2) 修飾節の中のことばには修飾節をつけない。
 - (3) 文または節は、なるだけ前とのつながりを浮き立たせるようなことばで書き始める。
具体的には、長すぎる文を分割する、また前置修飾節が修飾していることばを前に出す。

文章の流れ～逆茂木型の文章～

- 論文は読者に向けて書くべきものであるため、著者の私情に基づいた事柄をいれるべきではない。→話の枝別れを防ぐ。
- 文章構成において序論は本論へスムーズに入れるように置かれるものであり、本論への進入に不必要な事柄は書かない。

まとめ

- 日本人の書いた英語の論文は日本語の文章構成と似ており, 日本語圏外の人には不慣れな文章となる。
- 理科系の論文は英語の文章構成に基づいて書くべきである。
- 文章の流れが逆茂木型にならないように, しっかりと話の道筋(論理)を把握・理解する。
- 無用なものは全部切り捨ててしまい簡潔でわかりやすいものにする。
- 論文は読者に向けて書くものであり, 著者の思いを満たすためのものではない。